

インターバンクの声（2015 年 2 月 10 日）

昨夜の海外市場でのドル円相場は、多くの市場参加者が当面のレンジと想定している 117～119 円の内側にあっさりと戻ってしまった。金曜日の予想以上に強かった米雇用統計の結果に久々の 119 円超えだったが、日足・雲の上限程度しか障害がないと思われた上限にも関わらず、簡単には新たなレンジ形成をさせてくれなかった。もっともロンドン市場の朝方には、もう一度しっかり上値押し上げを図りたいような動きも見えていたが、ギリシャ情勢の不透明な先行きや欧州各国の冴えない株価スタートがお決まりのリスク回避となる円買いに繋がってしまったようだ。ニューヨーク市場入りした後も、特段ドル買いに結びつく材料や米債利回りが目立って上昇することもなく、雇用統計後のような鋭いドル買い相場に戻ることはなかった。来週の春節休暇入りを控えての中国の経済指標や今週この後の米経済指標の結果でどこまで動きに繋がるかを見守るしかないようだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。